

トレニア カウアイ・シリーズ

学名: *T. fourieri*

種子粒数の目安: 約1,000-1,150 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は中庸(0.75mmhos/cm(1:2))を維持する

播種

288 から 406 穴までのトレイサイズが適当。覆土で種子を埋めすぎないように注意する

ステージ 1 - 発芽には4から 6 日を要する

地 温: 22 から 24°C

光条件: 発芽に際して光をあてるのが適当

水 分: ステージ 1 では最良の発芽条件を整えるため、水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿 度: 子葉が発生するまでは相対湿度 95%を維持

ステージ 2

地 温: 20 から 23°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水 分: やや湿潤(level4)を維持するが、根が培地を十分に浸透するよう、少しずつ水分を減らす

肥 料: リン酸が低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm 以下(N)、EC は 0.7 mS/cm 以下)で開始する

ステージ 3

地 温: 20 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水 分: ステージ 2 よりもドライな状態に移し、次の水やりまでに培地の表面がダークブラウンになるような、level 3(中位)で管理する。湿潤と乾燥、つまり level 4 と 3 を循環的に繰り返すようにする。このときに苗を枯らさないように注意します。一度枯れてしまうと回復は困難です

肥 料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mS/cm(1:2)を維持

矮化剤: 矮化剤は不要

ステージ 4

地 温: 18 から 19°C

光条件: 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

水 分: 上記ステージ 3 と同じ

肥 料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、初期の EC 値は中庸

温度

昼間温度: 18-21°C

夜間温度: 17-18°C

照度

温度条件が適正な範囲内で維持されていればできるだけ高くする

かん水

過湿や過度な乾燥は避ける

肥料

移植後 1 週経過をめぐりに、リン酸が少なくカリウムの多い、硝酸態を主体とした肥料をレート 3(175 から 225ppm 以下 (N)、EC は 1.2 から 1.5 mS/cm)で与える。用土の EC を 1.2 から 1.5 mS/cm、pH を 5.8 から 6.2 の範囲で維持

PGR(矮化剤)

移植後 2 週目にサイコセル 500 から 700ppm の散布で効果が確認されている。必要があれば繰り返す

サイコセルの代わりに、ボンザイ 20 から 30ppm による散布も可能であるが、効果は多少弱い

B ナインの単独、またはタンクミックスでの使用は避ける。B ナインは発色に影響を及ぼし、品種によっては色が現れなくなる場合もある。それ以外にも、B ナインは開花が遅くなることも確認されている

ピンチ

ピンチは不要

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ):

5 から 8 週(406 穴による生産ではだいたい 1 週短い)

288 穴の苗による出荷適期までの週数

コンテナサイズ	株本数/ ポット・コンテナ	出荷適期までの 週数
804 パック*	1	5-6
10cm ポット	1	6-7

*: 1 辺が約 6cm のカットパックような形状

病例等

虫害、病気ともに重大な事例は報告されていない

定植場所や配置について

カウアイ・シリーズは日陰の、あるいは適宜日陰になる条件を好む

草丈: 20cm

株張: 20cm

定植時の株間: 20cm

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。